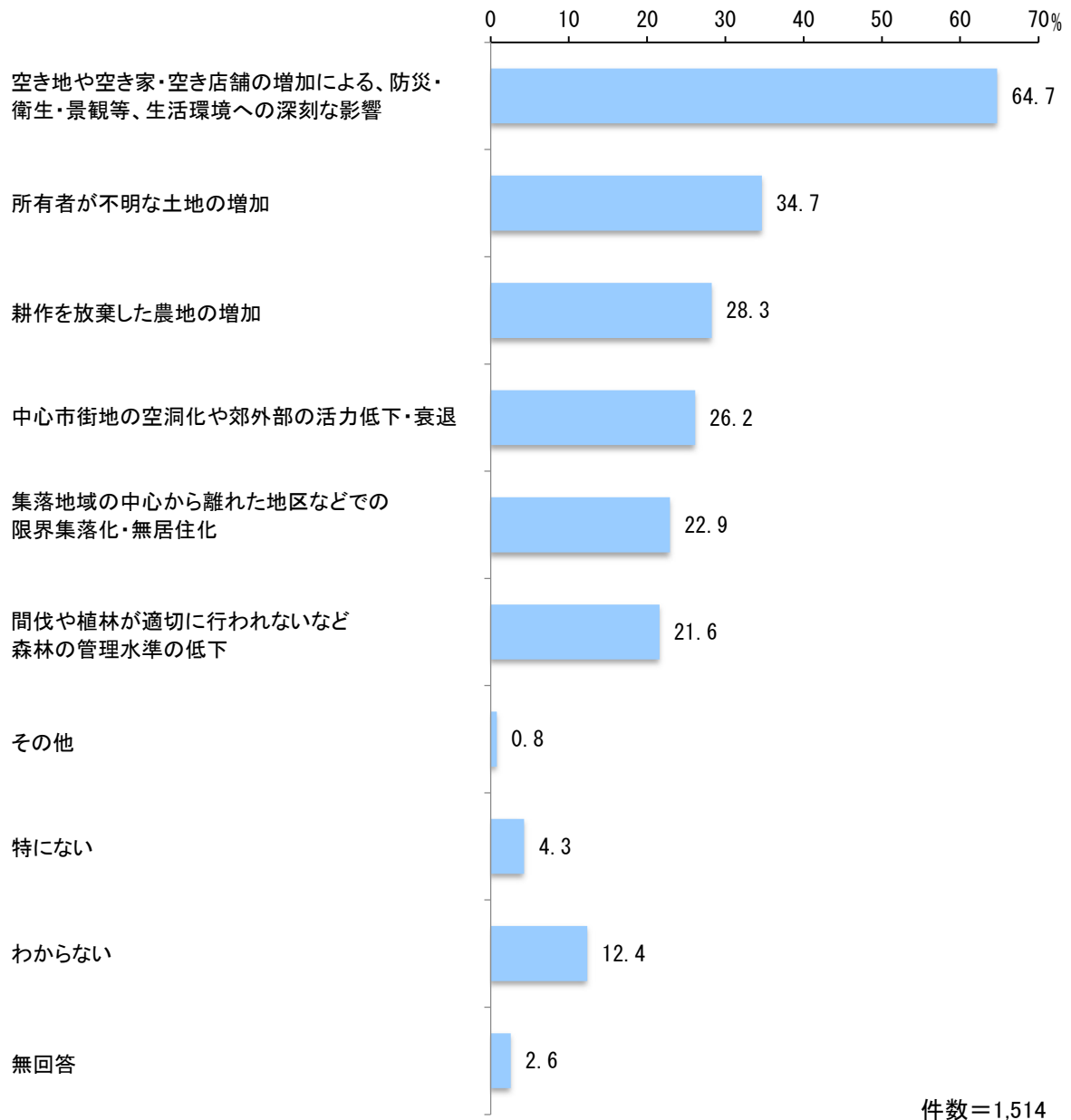


## 11 土地利用対策について

### (1) 県の土地利用に関して深刻だと感じる問題

**「空き地や空き家・空き店舗の増加による、防災・衛生・景観等、生活環境への深刻な影響」が64.7%**

問 48 愛知県の人口は2019年をピークに減少しており、今後も減少が続くことが見込まれています。人口の減少に伴い、土地利用に様々な弊害が生ずることが懸念されていますが、愛知県の土地利用に関して、あなたが深刻な問題だと感じることは何ですか。【〇は複数可】



県の土地利用に関して深刻だと感じる問題について、「空き地や空き家・空き店舗の増加による、防災・衛生・景観等、生活環境への深刻な影響」と答えた人の割合が64.7%と最も高く、続いて「所有者が不明な土地の増加」(34.7%)、「耕作を放棄した農地の増加」(28.3%)の順となっている。

空き地や空き家・空き店舗の増加による、防災・衛生・景観等、生活環境への深刻な影響

所有者が不明な土地の増加

耕作を放棄した農地の増加

< 性別 >

男 性	63.8	37.4	30.8
女 性	66.3	32.8	26.4
答えたくない わからない その他	53.3	40.0	26.7

< 年齢別 >

18・19 歳	44.7	23.7	13.2
20～29 歳	54.9	22.0	19.5
30～39 歳	57.4	35.5	30.1
40～49 歳	67.4	42.8	24.7
50～59 歳	71.3	35.0	27.2
60～64 歳	63.1	39.6	28.9
65 歳以上	69.1	34.7	33.9

中心市街地の空洞化や郊外部の活力低下・衰退

集落地域の中心から離れた地区などでの限界集落化・無居住化

間伐や植林が適切に行われないなど森林の管理水準の低下

< 性別 >

男 性	29.1	20.7	21.2
女 性	24.3	25.0	22.4
答えたくない わからない その他	6.7	20.0	13.3

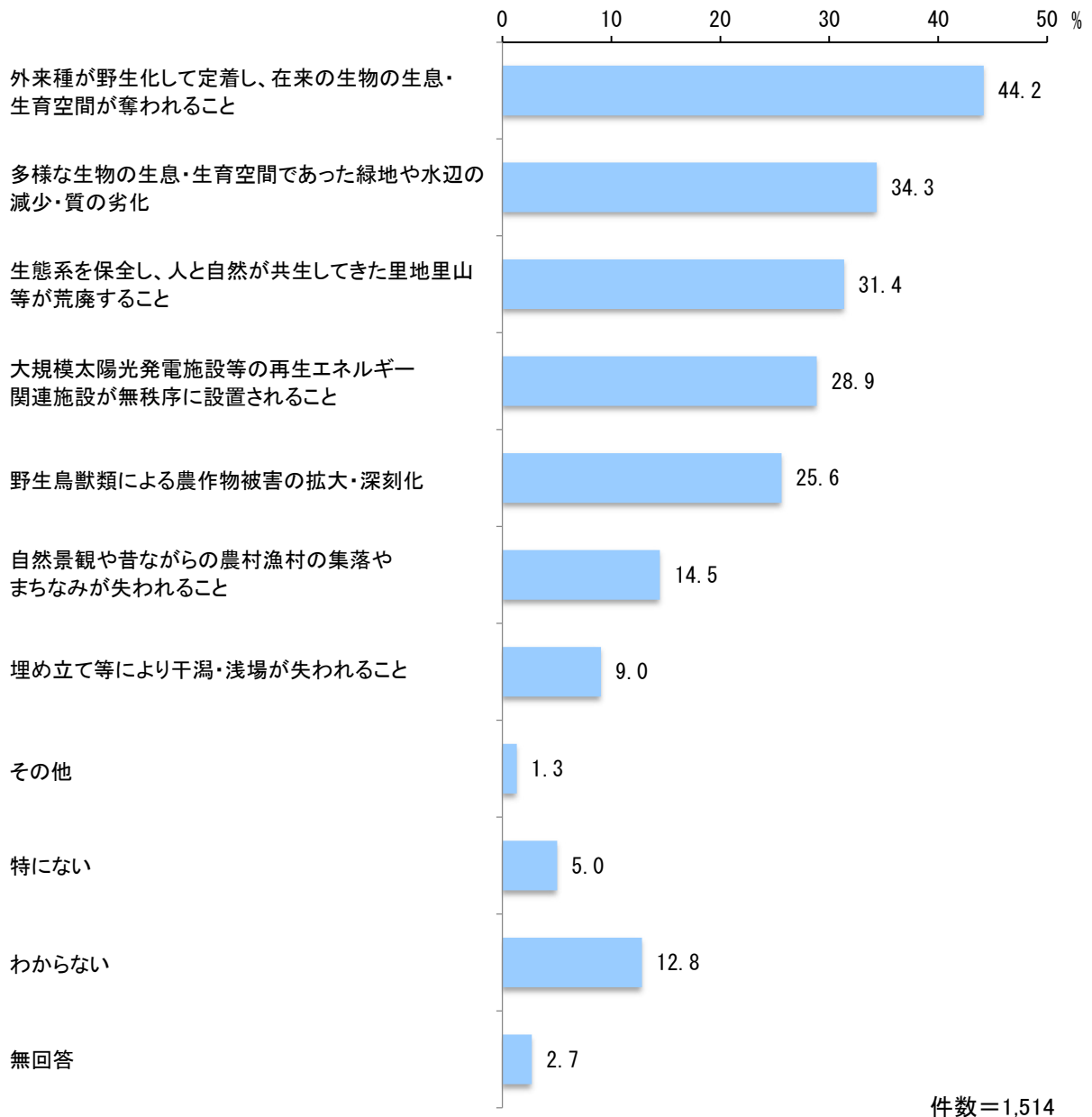
< 年齢別 >

18・19 歳	36.8	23.7	21.1
20～29 歳	22.6	25.6	15.9
30～39 歳	25.1	20.2	20.8
40～49 歳	26.5	27.9	17.2
50～59 歳	29.1	26.0	22.0
60～64 歳	30.9	27.5	28.9
65 歳以上	24.3	18.3	23.7

(2) 県の自然環境に関して深刻だと感じる問題

「外来種が野生化して定着し、在来の生物の生息・生育空間が奪われること」が 44.2%

問 49 地球規模の気候変動等により、自然環境の悪化や生物多様性の損失が懸念されています。愛知県の自然環境に関して、あなたが土地利用の面から特に深刻だと感じている問題は何ですか。【〇は3つまで】



県の自然環境に関して深刻だと感じる問題について、「外来種が野生化して定着し、在来の生物の生息・生育空間が奪われること」と答えた人の割合が 44.2%と最も高く、続いて「多様な生物の生息・生育空間であった緑地や水辺の減少・質の劣化」(34.3%)、「生態系を保全し、人と自然が共生してきた里地里山等が荒廃すること」(31.4%)の順となっている。

外来種が野生化して定着し、  
在来の生物の生息・  
生育空間が奪われること

多様な生物の生息・  
生育空間であった緑地や  
水辺の減少・質の劣化

生態系を保全し、人と自然が  
共生してきた里地里山等が  
荒廃すること

< 性別 >

男 性

44.2

32.8

31.5

女 性

45.3

36.5

31.9

答えたくない  
わからない その他

13.3

20.0

26.7

< 年齢別 >

18・19 歳

39.5

52.6

21.1

20～29 歳

38.4

36.6

27.4

30～39 歳

36.1

37.2

31.7

40～49 歳

42.8

40.0

32.1

50～59 歳

44.9

35.8

35.0

60～64 歳

43.6

26.2

37.6

65 歳以上

50.8

31.1

30.1

大規模太陽光発電施設等の  
再生エネルギー関連施設が  
無秩序に設置されること

野生鳥獣類による農作物被害  
の拡大・深刻化

自然景観や昔ながらの農村  
漁村の集落やまちなみが  
失われること

< 性別 >

男 性

33.0

25.3

13.1

女 性

25.9

26.8

15.3

答えたくない  
わからない その他

13.3

6.7

13.3

< 年齢別 >

18・19 歳

15.8

18.4

18.4

20～29 歳

18.3

18.9

17.7

30～39 歳

30.1

20.8

12.0

40～49 歳

32.1

20.0

12.1

50～59 歳

26.4

21.7

15.4

60～64 歳

30.2

32.2

15.4

65 歳以上

32.9

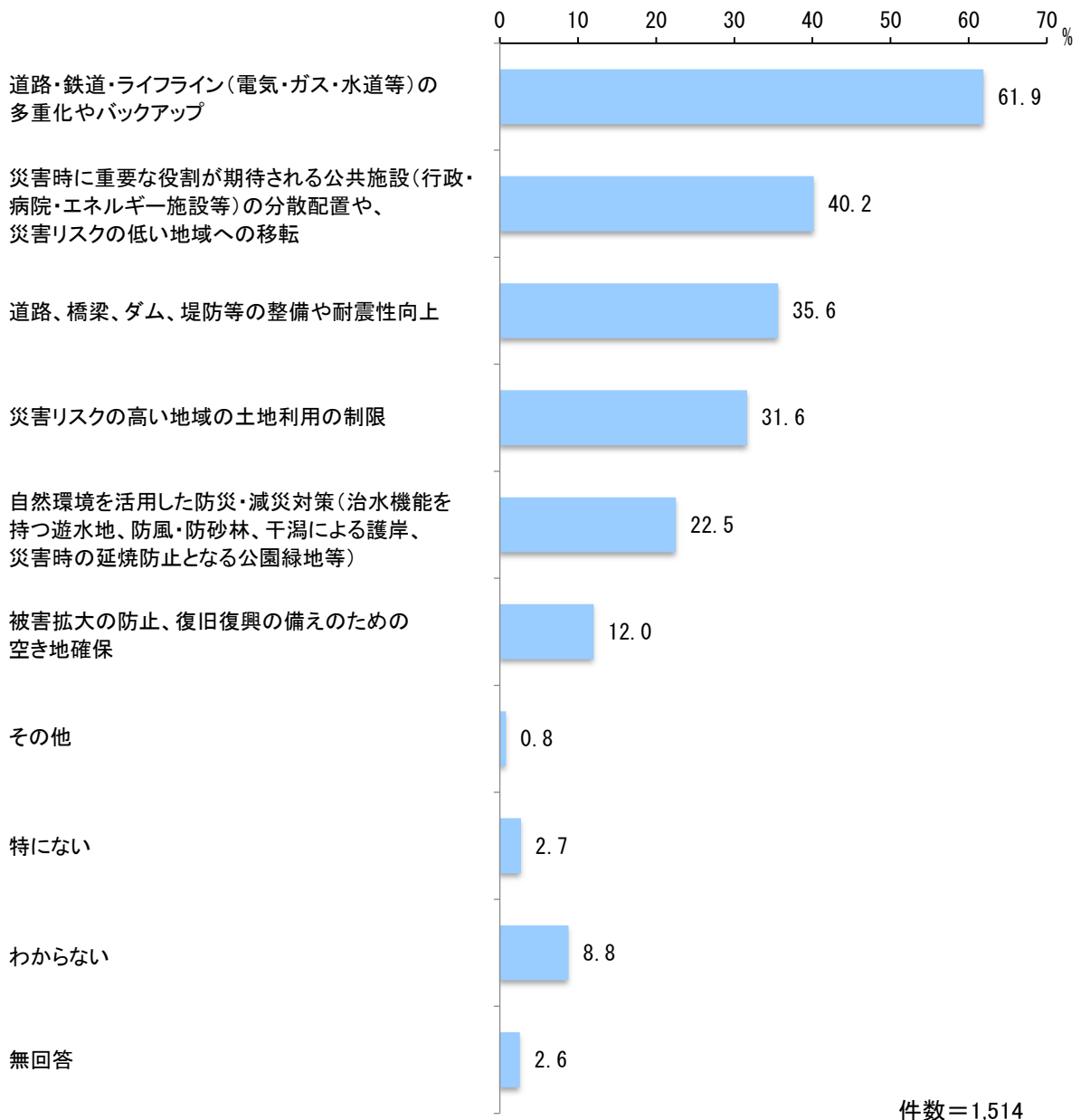
33.3

14.3

(3) 安心・安全を確保するため土地利用の面から重要な対策

「道路・鉄道・ライフライン（電気・ガス・水道等）の多重化やバックアップ」が61.9%

問 50 洪水・土砂災害・地震災害・津波災害など様々な災害リスクから安心・安全を確保するために、土地利用の面からどのような対策が特に重要だと思いますか。【〇は3つまで】



安心・安全を確保するため土地利用の面から重要な対策について、「道路・鉄道・ライフライン（電気・ガス・水道等）の多重化やバックアップ」と答えた人の割合が61.9%と最も高く、続いて「災害時に重要な役割が期待される公共施設（行政・病院・エネルギー施設等）の分散配置や、災害リスクの低い地域への移転」（40.2%）、「道路、橋梁、ダム、堤防等の整備や耐震性向上」（35.6%）の順となっている。

道路・鉄道・ライフライン  
(電気・ガス・水道等)の  
多重化やバックアップ

災害時に重要な役割が期待される  
公共施設(行政・病院・エネルギー  
施設等)の分散配置や、  
災害リスクの低い地域への移転

道路、橋梁、ダム、堤防等の  
整備や耐震性向上

< 性別 >

男 性	62.3	40.4	38.4
女 性	62.6	40.9	33.8
答えたくない わからない その他	40.0	33.3	20.0

< 年齢別 >

18・19 歳	39.5	47.4	44.7
20～29 歳	55.5	37.8	40.9
30～39 歳	61.7	40.4	35.0
40～49 歳	62.8	35.3	34.4
50～59 歳	66.1	42.9	35.4
60～64 歳	63.8	43.0	40.9
65 歳以上	63.9	41.2	32.9

災害リスクの高い地域の  
土地利用の制限

自然環境を活用した防災・減災対策  
(治水機能を持つ遊水地、防風・  
防砂林、干潟による護岸、災害時の  
延焼防止となる公園緑地等)

被害拡大の防止、復旧復興の  
備えのための空き地確保

< 性別 >

男 性	31.8	24.7	11.2
女 性	32.2	21.3	12.7
答えたくない わからない その他	6.7	6.7	6.7

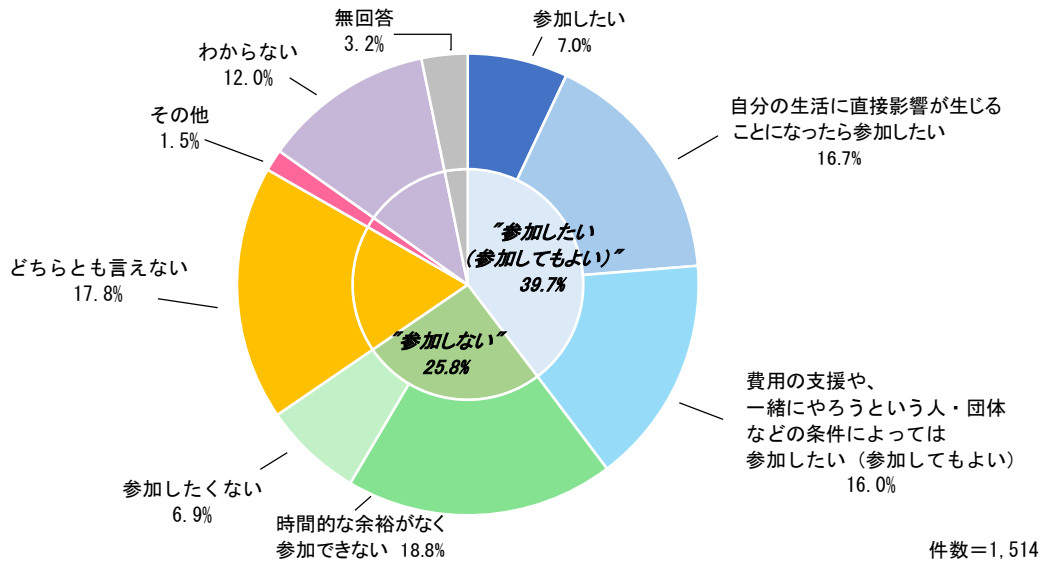
< 年齢別 >

18・19 歳	44.7	13.2	23.7
20～29 歳	23.8	17.7	9.8
30～39 歳	31.7	22.4	9.3
40～49 歳	37.2	23.3	10.2
50～59 歳	31.5	19.7	13.0
60～64 歳	28.2	19.5	12.8
65 歳以上	32.3	27.3	12.9

(4) 県土改善活動への参加意欲

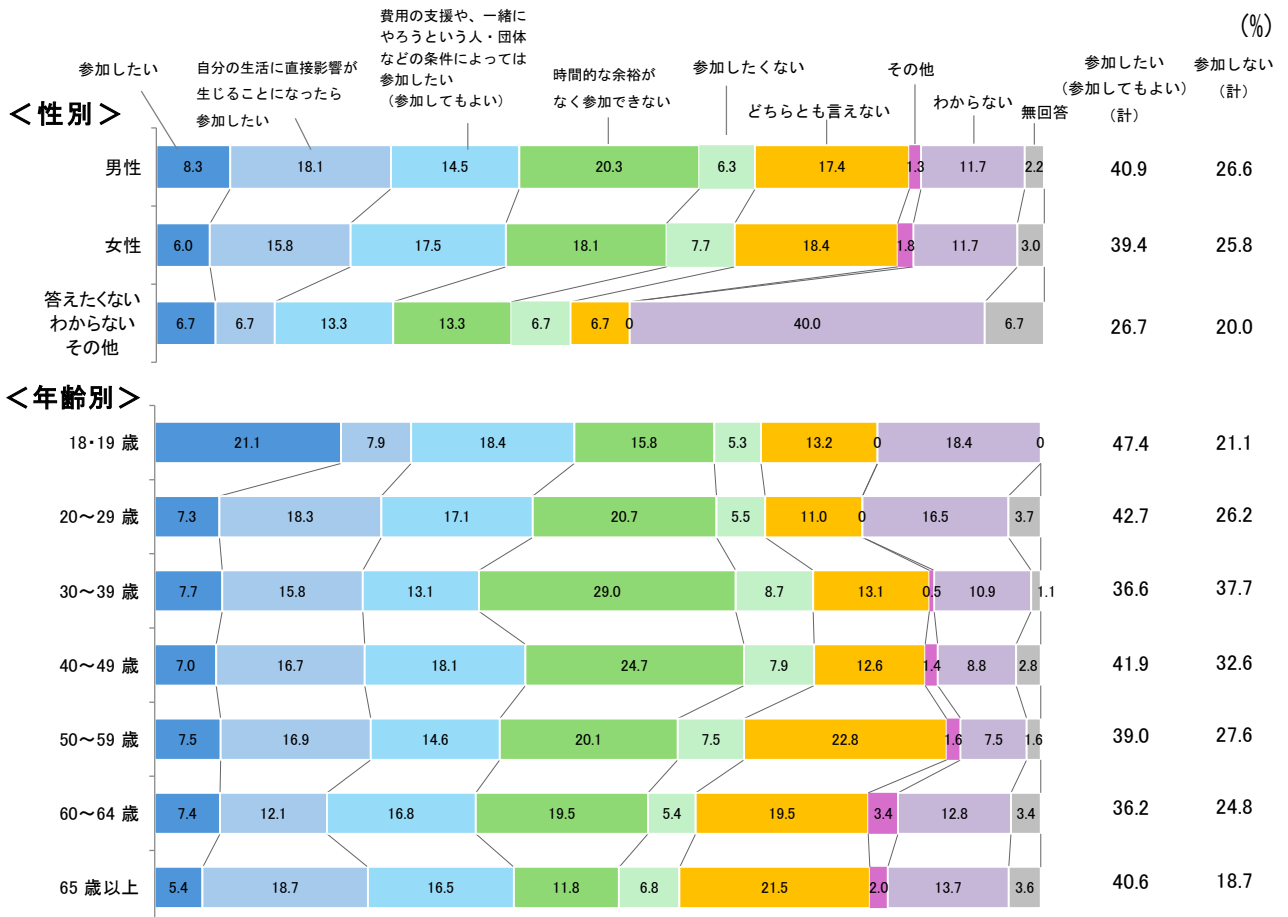
“参加したい（参加してもよい）”が39.7%

問 51 近年、森林、里山、農地、漁場や河川の保全、緑あふれる住宅地づくり、地域の公園の管理などに関心を持ち、その管理に参加し、より良い状態に保っていこうといった活動が数多く見られるようになりました。あなたは、地域に暮らす住民として、こうした地域づくりの取組に参加したいですか。【〇は1つ】



県土改善活動への参加意欲について、「参加したい」(7.0%)と「自分の生活に直接影響が生じるようになったら参加したい」(16.7%)と「費用の支援や、一緒にやろうという人・団体などの条件によっては参加したい (参加してもよい)」(16.0%)を合わせた“参加したい (参加してもよい)”と答えた人の割合は39.7%となっている。

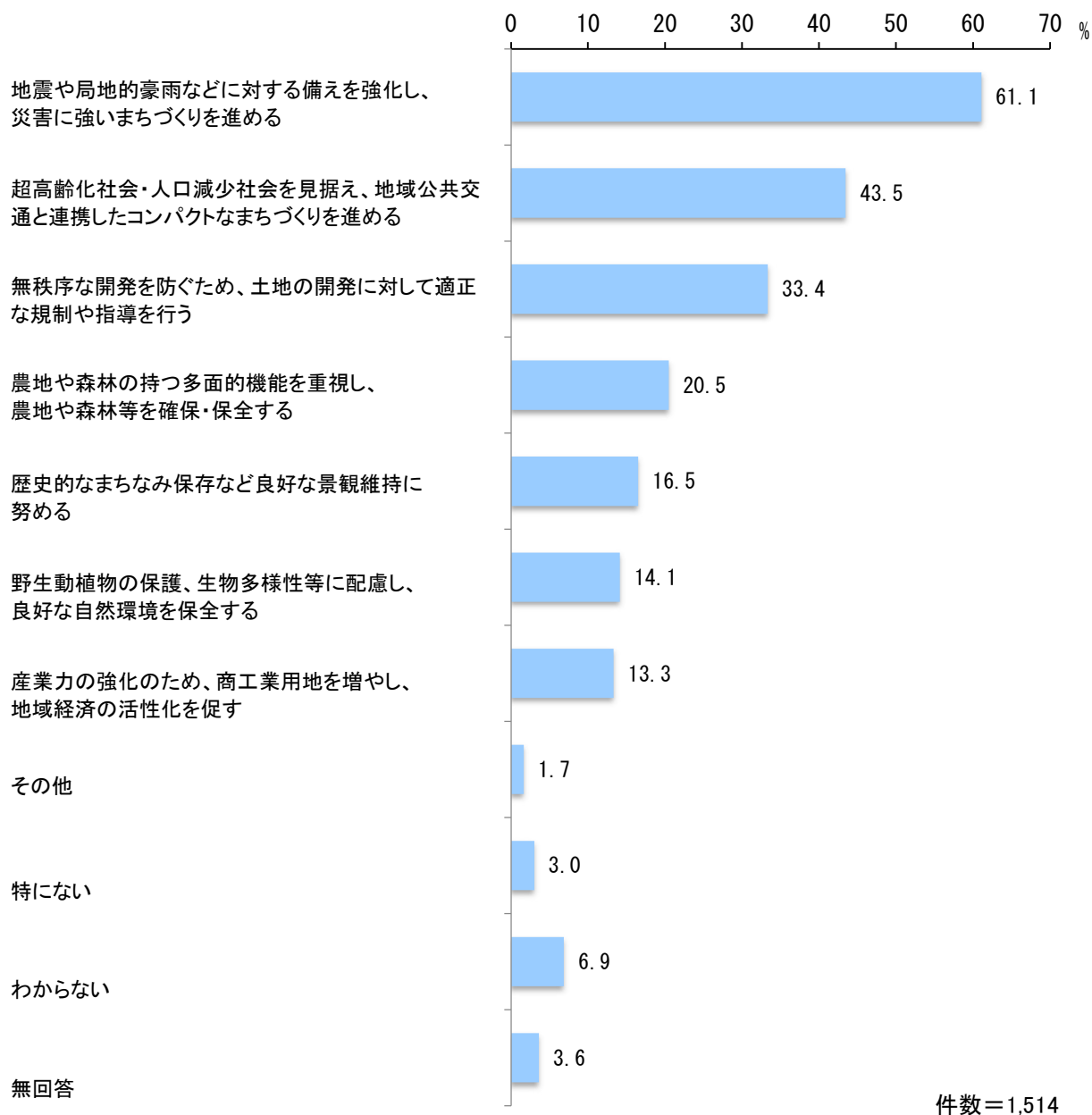
一方で、「時間的な余裕がなく参加できない」(18.8%)と「参加したくない」(6.9%)を合わせた“参加しない”と答えた人の割合は25.8%となっている。



(5) 自治体に力を入れてほしい土地利用対策

「地震や局地的豪雨などに対する備えを強化し、災害に強いまちづくりを進める」が61.1%

問 52 愛知県における今後の土地利用を考えるにあたり、県や市町村に特に力を入れてほしい土地利用対策は何ですか。【〇は3つまで】



自治体に力を入れてほしい土地利用対策について、「地震や局地的豪雨などに対する備えを強化し、災害に強いまちづくりを進める」と答えた人の割合が61.1%と最も高く、続いて「超高齢化社会・人口減少社会を見据え、地域公共交通と連携したコンパクトなまちづくりを進める」(43.5%)、「無秩序な開発を防ぐため、土地の開発に対して適正な規制や指導を行う」(33.4%)の順となっている。



地震や局地的豪雨などに対する備えを強化し、災害に強いまちづくりを進める

超高齢化社会・人口減少社会を見据え、地域公共交通と連携したコンパクトなまちづくりを進める

無秩序な開発を防ぐため、土地の開発に対して適正な規制や指導を行う

### < 性別 >

男 性

56.1

44.7

37.4

女 性

66.8

43.0

30.4

答えたくない  
わからない その他

40.0

26.7

13.3

### < 年齢別 >

18・19 歳

60.5

34.2

26.3

20～29 歳

57.3

29.9

22.0

30～39 歳

52.5

37.2

28.4

40～49 歳

59.5

44.2

32.1

50～59 歳

65.7

45.7

31.1

60～64 歳

63.8

51.0

37.6

65 歳以上

64.5

48.0

40.4

### < 性別 >

男 性

20.0

17.8

15.5

女 性

21.1

15.5

13.3

答えたくない  
わからない その他

20.0

20.0

13.3

### < 年齢別 >

18・19 歳

31.6

15.8

28.9

20～29 歳

20.1

22.6

15.2

30～39 歳

19.1

18.0

17.5

40～49 歳

20.9

18.1

14.0

50～59 歳

18.1

18.1

15.4

60～64 歳

19.5

16.8

16.1

65 歳以上

21.9

12.7

10.6

農地や森林の持つ多面的機能を重視し、農地や森林等を確保・保全する

歴史的なまちなみ保存など良好な景観維持に努める

野生動植物の保護、生物多様性等に配慮し、良好な自然環境を保全する